



家畜衛生情報

第152号
2022年 冬号

家畜衛生情報



県南家畜保健衛生所
(長崎県島原振興局農林水産部 衛生課、防疫課)

〒859-1415 長崎県島原市有明町大三東戊908-1
TEL (0957)68-1177 (休日、夜間も転送電話対応)
FAX (0957)68-2056
Eメールアドレス s11340@pref.nagasaki.lg.jp

県南家畜保健衛生所 長崎県

🔍 検索

【QRコード】



令和4年の初春を迎えて



あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から島原半島地域における畜産振興及び家畜衛生対策の推進にご理解とご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

まず、最近の家畜衛生の状況につきましては、高病原性鳥インフルエンザが昨年11月10日に秋田県で発生し、その後、鹿児島県、熊本県など九州内でも確認されています。また、豚熱は国内で散発的な発生がみられ、感染いのししの生息地域も徐々に広がってきており、口蹄疫やアフリカ豚熱につきましても、近隣諸国で継続して発生がみられている状況です。

このようなことから、これらの家畜伝染病が本県へ侵入するリスクは非常に高くなってきております。ひとたび発生すると畜産の生産基盤を脅かす事態となりますので、農家の皆様方におかれましては、引き続き、農場・畜舎への出入り時の車両・人等の消毒や部外者の立入制限など飼養衛生管理基準遵守の徹底による発生防止対策の強化をお願いいたします。

県としましては、発生防止対策の強化に加え、迅速かつ的確な初動防疫作業が実施できるよう関係機関等と連携し、防疫体制強化に努めてまいります。

また、家畜防疫対策とともに、生産性の向上を図るため、慢性疾病対策や繁殖成績向上対策等に取り組んでまいります。

今年は第12回全国和牛能力共進会鹿児島県大会が開催されます。九州内で開かれるこの大会で、長崎の和牛関係者の夢が花開くことを祈念いたします。

さて、今年の干支は寅年(壬寅)。壬寅(みずのえとら)は、「陽気を孕み、春の胎動を助く」年とされ、厳しい冬を越えた後の春の芽吹きが生命力に溢れ、華々しい新たな成長が始まる年になるとされています。

この1年が皆様にとって、新たな成長が始まる素晴らしい一年となりますことを心からお祈り申し上げます、年頭の挨拶といたします。

県南家畜保健衛生所 所長 鬼塚 伸幸

令和3年度 国内における鳥インフルエンザ発生状況

令和3年度 国内における高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ発生状況

MAFF
農林水産省

(令和4年1月13日時点)

○家きん 9県13事例羽数の単位は万羽

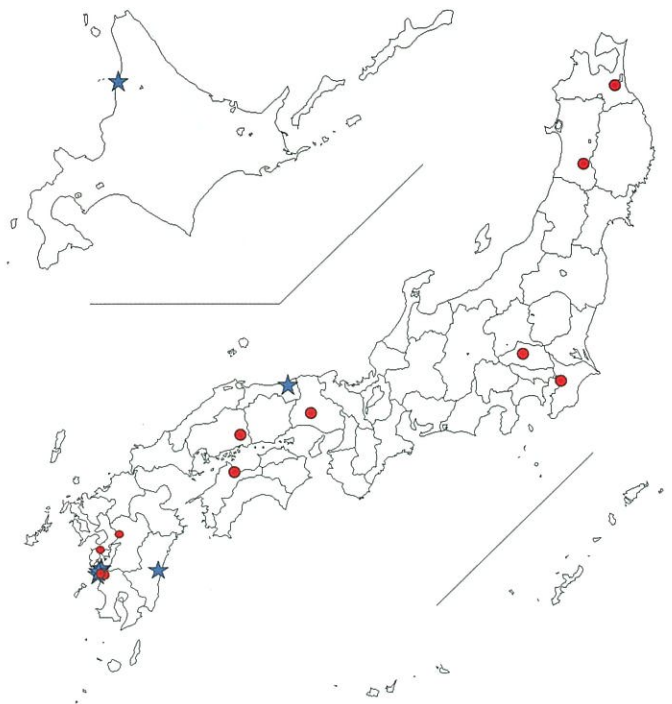
kagosima	地域	疑似患者判定日	用途	羽数	病原性*	亜型
1	秋田県横手市	11/10	採卵鶏	約14.3	HPAI	H5N8
2	鹿児島県出水市	11/13	採卵鶏	約3.8	HPAI	H5N1
3	鹿児島県出水市	11/15	採卵鶏	約1.1	HPAI	H5N8
4	兵庫県姫路市	11/17	採卵鶏	約15.5	HPAI	H5N1
5	熊本県南関町	12/3	肉用鶏	約6.7	HPAI	H5N1
6	千葉県市川市	12/5	あひる (アイガモ)	約0.03	HPAI	H5N1
7	埼玉県美里町	12/7	採卵鶏	約1.7	HPAI	H5N1
8	広島県福山市	12/7	採卵鶏	約3.0	HPAI	H5N1
9	青森県三戸町	12/12	肉用種鶏	約0.7	HPAI	H5N1
10	愛媛県西条市	12/31	採卵鶏	約13	HPAI	H5N1
11	愛媛県西条市	1/4	採卵鶏	約8.3	HPAI	H5N1
12	愛媛県西条市	1/4	採卵鶏	約14.2	HPAI	H5N1
12関連	愛媛県今治市	1/4	採卵鶏	約0.6	-	-
13	鹿児島県長島町	1/13	肉養鶏	約5.4	検査中	検査中
13関連	鹿児島県長島町	1/13	肉養鶏	約5.7	-	-

○野鳥 10事例 (HPAIに限る)

※詳細は環境省https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/

検体回収場所	検体回収日	種名	病原性*	亜型
1 北海道旭川市	10/26	マガモ	LPAI	H5N3
2 鹿児島県出水市	11/8	環境試料(水)	HPAI	H5
3 宮崎県宮崎市	11/9	糞便	HPAI	H5N1
4 鹿児島県出水市	11/19	ナベツル	HPAI	H5N8
5 鹿児島県出水市	11/22	環境試料(水)	HPAI	H5N8
6 鹿児島県出水市	11/22	環境試料(水)	HPAI	H5N8
7 鹿児島県出水市	12/3	マガモ	ウイルス分離陰性	-
8 鹿児島県出水市	11/29	環境試料(水)	HPAI	H5N8
9 鳥取県鳥取市	12/1	環境試料(水)	HPAI	H5N8
10 鳥取県鳥取市	12/1	糞便	LPAI	H7N7
11 鹿児島県出水市	12/10	オナガガモ	ウイルス分離陰性	-
12 鹿児島県出水市	12/6	環境試料(水)	HPAI	H5N8
13 福井県若狭町・美浜町	11/25	野鳥糞便	LPAI	H7N7
14 石川県内灘町	12/3	野鳥糞便	LPAI	H5N3
15 鹿児島県出水市	12/20	環境試料(水)	HPAI	H5N1
16 北海道苫前町	1/2	オジロワシ	HPAI	H5

※ HPAI: 高病原性鳥インフルエンザ
LPAI: 低病原性鳥インフルエンザ
黒塗りはLPAIまたはウイルス分離陰性



● 家きん

★ 野鳥 (HPAIに限る)

鳥インフルエンザの発生防止対策を徹底してください

昨シーズンは過去に例をみない大流行を起こした高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）ですが、今シーズンも既に家きん農場で9県12事例の発生が確認されています。

HPAIの発生を防ぐためには、野鳥や野生小動物の鶏舎内への侵入防止対策と、人によるウイルスの持ち込み対策の両方を徹底する必要があります。昨シーズンと同様に今シーズンも発生農場では、鶏舎内へのネズミ、スズメ等の侵入や鶏舎壁面、鶏糞搬出用ベルトコンベアの出口等の隙間、金網の破損等が認められています。また、昨シーズンの発生では、農場間伝播が否定できない事例があり、人や車両を介したウイルスの侵入防止対策も重要です。

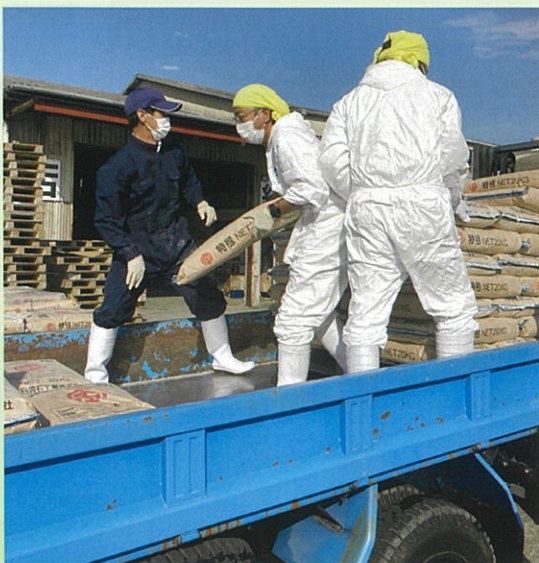
養鶏農家及び関係者の皆様におかれましては、今一度、下記7項目の再確認を行い、遵守を徹底してください。

- ①衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒又は専用手袋の使用
- ②衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用
- ③衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等
- ④家きん舎に立ち入る者の手指消毒等
- ⑤家きん舎ごと専用の靴の設置並びに使用
- ⑥野生動物侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕
- ⑦ねずみ及び害虫の駆除

管内でのHPAI発生防止のため、11月に全養鶏場に消石灰を配布し、農場敷地の消毒をしてもらいました。

消石灰は、水分を帯びることで強アルカリとなり、強い消毒効果を発揮します。土壌上に散布した場合は、土壌の水分を吸収することで効果を発揮しますが、乾燥したコンクリート上に散布した場合は、水分を吸収できないためほとんど効果が得られません。

乾燥したコンクリート上に散布する場合は少量で良いのでじょうろ等で散水するようにしましょう。



海外でのアフリカ豚熱(ASF) の発生状況

アフリカ豚熱 (ASF) が世界で初めて見つかったのが1921年です。それから100年が経過した現在、本病はアフリカとユーラシア大陸に広く拡散し、アジアで発生のない国はわが国を含めてわずかになりました。本年4月には中米のドミニカ共和国でも発生が確認されましたが、検出されたウイルスはユーラシアのウイルスと同じ遺伝子型と報告されています。本病は、感染イノシシの移動等により伝播するほか、感染豚由来の肉製品や残飯を介して国境を越えて侵入します。本年8月にも、台湾で、ベトナムからの密輸豚肉からASFウイルスが検出され、一部製品が既に市場に流通したとも報道されました。わが国でも違法に持ち込まれた複数の豚肉加工品から生きたASFウイルスが分離されており、ウイルスが水際まで迫っている状況

出典：OIE等

ASFの発生状況

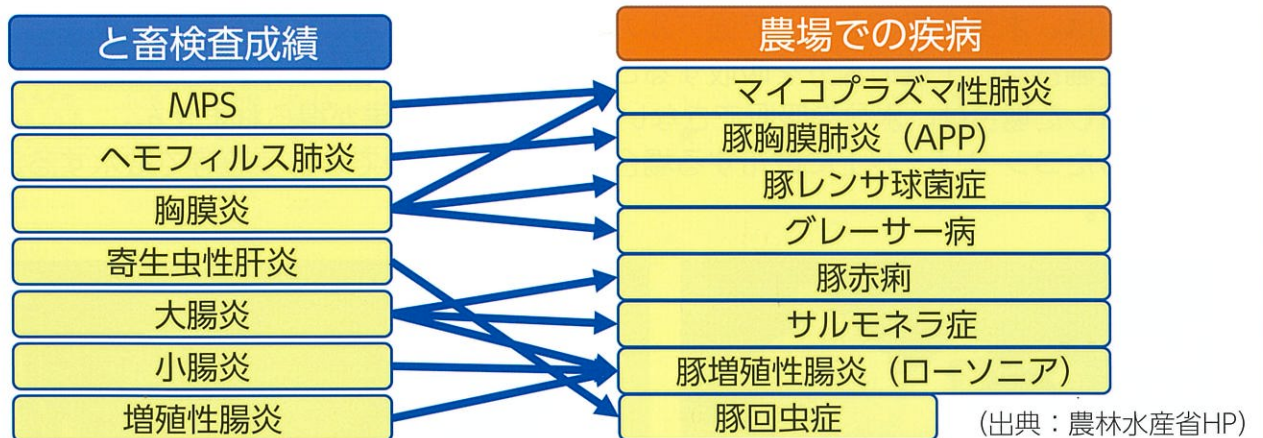
2022年1月11日時点

■ =2005年以降OIE等に発生通報のあった国/地域



です。万一、わが国で野生イノシシへの感染が起きた場合、ワクチンがない本病は、現在大きな問題となっている豚熱以上の被害を引き起こす可能性があります。日頃から飼養衛生管理基準を確認し、万一の国内へのウイルス侵入時に被害を防げるよう備えておいてください。

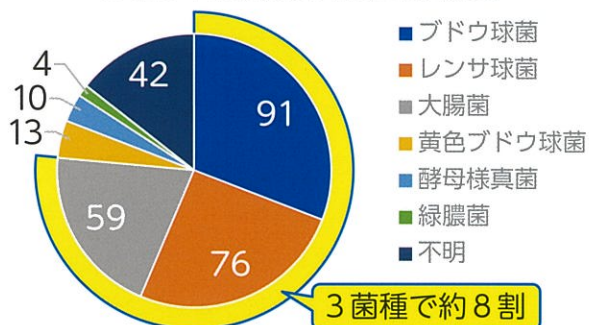
と畜検査成績を豚の慢性疾病対策に活用しましょう



慢性疾病は、農場に常在化して発育の遅延や事故率の上昇を招くため、養豚経営を行う上で頭を悩ます問題です。本県ではデータ還元事業として、希望する生産者に、食肉衛生検査所からと畜検査成績のフィードバックを行っています。上図のように、と畜検査成績から農場で起きている慢性疾病を推定できます。そして、このと畜検査成績をもとに家畜保健衛生所が農場での調査を行うことで、被害を及ぼしている病原体やステージを特定できます。実際に、本年度、と畜検査で大腸廃棄の多い複数の農場で調査を行った結果、豚赤痢やサルモネラ、ローソニアが確認されました。病気の原因を正確に知ることで、被害を防ぐための効果的な対策を行うことができ、生産性の向上や収益の増加が期待できます。と畜検査成績のフィードバックを受けて、気になる点があればご相談ください。

乳房炎の発生状況について

令和3年次乳房炎検査分離菌



令和3年1～12月に当所へ乳房炎の検査依頼があった検体から分離された菌の種類は、ブドウ球菌、レンサ球菌及び大腸菌の3菌種で**全体の約8割**を占めていました。これらの菌が原因で生じる乳房炎は**環境性乳房炎**に分類されるものです。その対策としては、**乳房清拭、牛舎や牛床の清掃・消毒、手指の消毒が効果的**なので清潔な環境整備を心掛けましょう。

牛の異常産を予防しましょう

アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病及びピートンウイルス感染症は、ヌカカ等により媒介されるアルボウイルスによる病気で、右の写真に示すような牛の異常産（流産、死産、子牛の虚弱や体型異常等）を引き起こします。

これらのウイルスによる異常産の発生を予防するためには**牛異常産4種混合ワクチン**の接種が重要です。



牛異常産4種混合ワクチン

効果：牛のアカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病及びピートンウイルス感染症の予防

接種時期：4～6月 初回：1か月間隔で2回接種、翌年以降年1回接種。

ワクチンを正しく使用してこれらのウイルスによる異常産を予防しましょう。

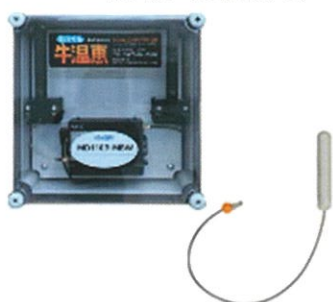
日本一の分娩間隔を続けましょう!

長崎県における、肉用牛の分娩間隔は392日であり、日本一の成績となっています。長期不受胎牛の早期治療や、発情発見機器等のICT機器の活用、代謝プロファイルテストを活用した指導等により繁殖雌牛の分娩間隔を令和7年までに380日への短縮を目指します。分娩間隔380日を達成するためには、分娩後95日以内に受胎させる必要があります。島原半島の受胎までの平均授精回数は1.5回であり、子宮回復後から分娩後95日までの授精のチャンスは約2回です。そのため、目標を達成するためには、発情を見逃さないことや、早期の妊娠鑑定や治療によって空胎期間を延ばさないことが重要です。発情をより発見しやすくするためには、ICT（牛温恵、Webカメラ、パソコンでの台帳管理）の利用、繁殖カレンダーの活用、個体ごとの台帳管理等があげられます。自分に合ったやり方で、発情の見逃しを減らしましょう。

ICT (分娩・発情検知)



ICT (分娩・発情検知)



ICT (ウェブカメラ)



繁殖カレンダー▶

令和3年度 全国動物薬事監視事務打合せ会議・獣医事講習会

令和3年11月16日・17日に、標記の会議・講習会が開催されました。主な内容は下記のとおりです。

愛玩動物看護師法について

近年の獣医療の内容が高度化、多様化してきていることから、動物看護師が診療現場におけるチーム獣医療に果たす役割への期待が高まっています。そのような背景のもと、愛玩動物看護師法が成立し、令和4年5月1日より法の全部施行、令和5年2月末～3月頃に第1回試験が予定されています。愛玩動物看護師の資格を取得すると、これまでの愛玩動物の看護、検査業務（検査結果に基づく診断は除く）、その他一般業務に加え、「獣医師の指示の下に行う採血、投薬（経口など）、マイクロチップ挿入、カテーテルによる採尿など」が実施可能となります。

- 農林水産省HPでは最新の情報を掲載しています。

URL https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/doubutsu_kango/

愛玩動物看護師

検索

畜産業への遠隔診療の積極的な活用

畜産業への規制改革の一環として、家畜の遠隔診療においても初診から遠隔診療が可能になる旨の通知が発出されました。農場の担当獣医師が定期的に指導をしており情報通信機器によって正確な情報が得られる場合には、群の一部に対面での診療が行われていない家畜が含まれていても初診から遠隔診療（要指示医薬品の処方を含む。）が可能になります。

産業動物獣医師の偏在や情報通信機器の高度化、普及なども踏まえ、遠隔診療の適時・適切な活用の推進が期待されます。

薬剤耐性対策～抗菌剤に頼らない取組み

薬剤耐性対策の優良事例として、管理獣医師の指導の下、飼養衛生管理の徹底や、グループシステムの導入等様々な工夫により、事故率の低減、生産性の向上を実現し、抗菌剤に頼らない養豚生産を実践している養豚生産者の方々の取組が紹介されました。

グループシステムを導入して3階建て豚舎でオールイン・オールアウトした事例、パーシャルデポピュレーションで豚舎の床から屋根裏まで徹底洗浄・消毒した事例、消毒液の噴霧により呼吸器病を低減させた事例など動画で紹介されているのでぜひご覧ください。

- 農林水産省による優良事例の紹介動画はこちら

→<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/youtonamr.html>



編集後記

新しい年を迎え、今年1年を元気に過ごすために食生活の改善に取り組んでいます。

日本の食生活では「たんぱく質」が足りなくなりがちと言われています。畜産物にはたんぱく質が豊富に含まれるので普段の食生活に何か1品、お肉や卵、牛乳を加えてみるのはいかがでしょうか？畜産物の消費拡大にもつながり良い事づくめです！

私は牛乳の消費量をアップさせるために牛乳を使ったキャラメル作りに励んでいます。畜産物をいっぱい食べて飲んで、みんなで良い1年をはじめましょう！